

平成26年度 茅ヶ崎市市民討議会報告書

いつまでも暮らす・楽しむ 茅ヶ崎ライフ
～わたしたちの豊かな長寿社会に向けて～

茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会

目次

実行委員長あいさつ	1
1 市民討議会の実施概要	
(1) 日程等	2
(2) 討議テーマと情報提供	2
(3) スケジュール	2
2 市民討議会の討議のヒント	
(1) 討議 1	3
(2) 討議 2	4
(3) 討議 3	5
3 市民討議会の提言のまとめ	
(1) 討議 1	6
(2) 討議 2	10
(3) 討議 3	15
(4) 書記の感想	19
4 講評	24
5 アンケートの結果	
(1) 事前アンケート結果	25
(2) 事後アンケート結果	28
(3) 不参加者アンケート結果	32
6 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会の動き	33
あとがき	34

実行委員長あいさつ

2014年7月6日は、暑い日曜日でした。この日、茅ヶ崎市では、「市民討議会」が開催されました。テーマは、「いつまでも暮らす・楽しむ茅ヶ崎ライフ ～わたしたちの豊かな長寿社会に向けて～」でした。

今からおよそ10年後、つまり2025年頃のことですが、私たちの社会は「超高齢化」することが予想されています。超高齢社会が到来すると、さまざまな社会的問題が発生するとの懸念があります。そのような状況下で、私たちはどのように楽しく、快適に、このまちで暮らすことができるのでしょうか。とても重要な課題解決が要求されているといえます。茅ヶ崎市では、この課題を「豊かな長寿社会の構築」と言い換えて、その実現を目指すべく、検討を始めています。今回の討議会では、こうした方針の話し合いが中心となりました。本報告書は、その話し合いの経過と結果をお知らせするものです。

さて、茅ヶ崎市は、討議会を継続して開催している、特徴ある自治体だと表現する人がいます。もちろん、回を重ねることだけが重要だというわけではありません。しかし、これまでの市民討議会の実績は、自治体への市民の参加において、意味あるものとなっていると信じます。なぜなら、ほとんどの参加者のみなさんが初めて顔をあわせる状況で、(今回は)長寿社会について話し合い、その経過や結果を自治体職員が聞き、行政プロセスにいかそうとする仕組みが繰り返されてきたからです。特に近年、「熟議」は行政への市民参加と重なる話題となっており、話し合いで方向性を定める方法が重視されるのは、やはり、これからの社会に必要な要素といえるでしょう。

実際に、討議の場では、参加者が長寿社会の茅ヶ崎版ライフスタイルについて理解を深めよう、その暮らしをイメージしようと熱心に話し合いをして下さいました。また、生きがい、地域での活躍・活動、ケアの現実などなど、長寿社会には多様なキーワードが含まれ、複雑な施策を要する点も確認されたのではないかと思います。そして、担当課は、長寿社会にたいする市民の感覚を把握し、その重要な論点については庁内の会議等にて紹介・反映するとしています。この確実な実行により、市民意見が行政により良く伝わることを期待します。

最後に、この場をお借りし、討議会の成立にご協力下さったすべての方々に御礼を申し上げます。討議会に参加して下さいました市民のみなさまには、熱気あふれる討議に。討議会の招待状にたいして出欠確認書やアンケートを返送して下さいましたみなさまには、そのご協力に(その結果も本報告書に含まれています)。実行委員・担当課諸氏には、そのご尽力に。そして、服部茅ヶ崎市長には、討議会開催のご承認に。また、こうした協力体制が、市民参加の次のステップにつながり、魅力的なまちづくりの一助となれば、なお幸いに存じます。

平成26年度 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員長
山田 修嗣(文教大学 国際学部)

1 市民討議会の実施概要

(1) 日程等

- ア 日 時 平成26年7月6日(日) 10時00分～17時00分
イ 会 場 茅ヶ崎地区コミュニティセンター
ウ 参加者 31名
エ 主 催 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会
(文教大学湘南総合研究所及び公益社団法人茅ヶ崎青年会議所で構成)

(2) 討議テーマと情報提供

- ア 全体テーマ
いつまでも暮らす・楽しむ 茅ヶ崎ライフ～わたしたちの豊かな長寿社会に向けて～
- イ 個別テーマ
討議1「長寿社会の状況把握」
討議2「健やかな生活と住み続けることができるまち」
討議3「高齢者を支えるから、高齢者とともに暮らすまちづくりへ」
- ウ 情報提供
○討議1 「長寿社会の状況把握」
(情報提供1回目：東京大学 高齢社会総合研究機構 木村清一氏)
○討議2 「健やかな生活と住み続けることができるまち」
(情報提供2回目：茅ヶ崎市 保健福祉部 高齢福祉介護課 大川寿之氏
株式会社くまじ 代表取締役 岩澤あゆみ氏)
○討議3 「高齢者を支えるから、高齢者とともに暮らすまちづくりへ」
(情報提供3回目：東京大学 高齢社会総合研究機構 木村清一氏)

(3) スケジュール

- 10:00 開会、主催者挨拶
10:10 趣旨、進行及び経緯の説明
10:20 討議進行の説明
10:30 情報提供①(アイスブレイクを含む)
10:45 グループ討議①
11:35 発表・投票
12:00 【休憩】
12:40 情報提供②
13:00 グループ討議②
14:00 【休憩】
14:10 発表・投票
14:40 情報提供③(質疑応答を含む)
15:00 グループ討議③
16:00 【休憩】
16:10 発表・投票
16:35 総括・挨拶
17:00 閉会

2 市民討議会の討議のヒント

(1) 討議 1 「長寿社会の状況把握」

内容	討議のヒント・きっかけ
自己紹介	お名前、お住まい、何か一言
アイスブレイク (情報提供を聞いて感じたこと)	心配になったこと 気を付けていること 楽観していること
このまま高齢化が進行したときに、2025年に起こる問題とは	暮らし（家庭）に起こる変化は何か (例) ・親や隣人が（認知症や身体能力面で）虚弱化したら生活（食事・排泄・外出等）はどう変化するか ・どのように仕事と介護のバランスを図るか（朝、夜や休日はどのように過ごすか） ・お金の使い方に変化が出るか ・職場ではどんな変化が起きるか
	わたしの地域に起こる変化は何か (例) ・病院、公園、商店はどうなるか ・自治会の活動やお祭りなどの地域活動はどうなるか ・地震や大雪などの災害時はどうなるか ・自宅やその周りの環境の管理はどうなるか ・行政サービスの変化（低下）、行政負担の増加などは心配ないか？
高齢化の進行による課題	解決すべき具体的な課題があるか わたしが関心をいだく課題は何か わたしの地域にとっての課題は何か
高齢化の進行による新しい可能性	期待するもの・こと

(2) 討議２「健やかな生活と住み続けることができるまち」

内容	討議のヒント・きっかけ
自己紹介、情報提供を聞いて感じたこと	お名前、お住まい、何か一言
地域での看取りにおける現状認識	看取りの経験はあるか、または、自分だったら どのように看取られたいか 看取ることの問題・課題・心配事は何か
なぜ地域で暮らすのか（茅ヶ崎、または住み慣れた地域、暮らしたい地域をイメージして）	住み慣れた地域の良さ、利点 住み慣れた地域は何が安心か（安心できること・もの）
在宅医療における現状認識にかんする意見交換	在宅医療のイメージはあるか 安心できること、心配なことはないか 「入院しないこと」をイメージしたり、実際に自分が選択したりできるか 在宅医療と聞いて、何か心配はあるか
高齢世代の虚弱化（＝ケアが必要なほどの生活力の低下）への疑問や心配な点	虚弱化（＝ケアが必要なほどの生活力の低下）とは何か 虚弱化するとどのような生活における課題が発生するか（体力、病気、心の問題など） その時に必要なケア（サポート）は、どのようなものが考えられるか 公共的なケア、私的・家族的ケア、病院の役割、有料サービスの必要性や課題（値段の問題など）”

(3) 討議3「高齢者を支えるから、高齢者とともに暮らすまちづくりへ」

内容	討議のヒント・きっかけ
自己紹介、情報提供を聞いて感じたこと	お名前、お住まい、何か一言
高齢世代の生きがいや活躍の場について	高齢者が地域にすることで、どのような魅力（良さ、すばらしさ、好影響）が発揮されるか （例） ・地域でイベントを開こうと思った時、人を集める（声かけする）こと、経験不足で困ったことを相談したいとき ・誰かに（または、誰かを）紹介したい（紹介してほしい）とき ・子どもを医者に連れていくほどではないが、誰かに経験を聞きたいと思った時 ・地域の伝統、昔話などを調べたい（聞いてみたい）と思ったとき
	高齢世代が地域勤労世代にたいしてできること（してあげたいこと）は何か （例） ・高齢者が経験的（人生において）につちかってきた、技能・技術・ノウハウ ・高齢者が提供したいと考えている役割（仕事、手伝い）
	高齢世代が地域に対してやりたいことは何か （地域のためになり、かつ高齢世代が生きがいを感じることは何か）
「生きがいをもって活躍する活動」にはどのようなものがあるか	高齢世代と勤労世代の「活躍」イメージの接点は何か どのような活動がこれからの地域には必要か

3 市民討議会の提言のまとめ

(1) 討議1「長寿社会の状況把握」

グループ 1	
＜情報提供の感想＞	80 代… 2025 年を想像できない 高齢化は身近で深刻な問題 健康なうちにいろいろやりたい 地域住民が集まり、話をする場所の不足 40～50 代… 女性は頑張らないと働けない 学生… 高齢者としてのイメージがまだつかない
＜要望・期待＞	高齢者がスポーツや食事の栄養面を管理できる環境がほしい(ケア) 高齢者が働ける環境、楽しめる環境があればいい 高齢者と若い人と触れ合う機会がもっと必要 共通の趣味を持つ人たちが集まる場所、 市民間の情報共有する手段の充実 コミュニケーション・交流
＜提案＞	フェイスブック 防災無線

グループ 2	
＜地域の現状＞	お年寄りが外へ出ていける場がない 自治会内はまあまあ仲が良い(自治会内の持ち回り) 子どもがいない(人口ピラミッドの“ひずみ”) 子どもを作る環境がない 待機児童の問題 地方より関東はつながりが薄い 社共のボランティアは人が限られる 入りたいときに介護施設に入ることができるか
＜個人としての現状＞	日本人の性として、(ケアを受ける人は、)(他人へ対する)迷惑を考えてしまう 自分が両親を介護することが心配 何をしたらよいかわからない (老後ケアを)子どもに頼るのは気が引ける 若者への負担

＜対策と課題＞	75 歳以上をハッピーにする 家に閉じ込めない・閉じ込めさせない ある程度の強制力を持って役割を分担(自治会内の仕事等) コミュニティへの貢献 コミュニケーションの場 情報共有できる場 みんなが集える場 家を訪問・呼びかけをする 子どもが育てやすい環境 人口ピラミッドを変えていく必要 迷惑をかけないように健康を意識する(自分自身の意識)
---------	--

グループ 3	
＜身の回りの介護の現状＞	近所で介護している方を知っている 自分の親と介護について話をする 近所でケアセンターに通っている方を知っている 周りに配慮して介護状況を話したがない人もいる 夫婦で介護
＜町の状況＞	一人生活をなくすことが難しい(昔は高齢者と共に暮らしてきた) 高齢者と暮らすことは嫌ではないが、(多忙で)協力できない のちの世代が不安 結婚しないことに不安を感じる 近所での付き合いがない
＜感想＞	子育ての難しい環境 保育園がない 保育制度は働いていないと入れないのでは 家族の形態が変わってきた 結婚に関心がない 子育ては計画的にはいかない 災害等の不安 “普通”に生活することが難しい 先に死んだほうがいいのかと思ってしまう 情報提供を受けても実感がわからない
＜これから＞	年を取る前に好きなものを作る 同じ目的を持った人との交流 自分の自立(経済面を含め) 健康に気を遣う インターネット・SNSの活用…(使い方がわからない・世代のギャップ)

	あいさつ
<まとめ>	住んでいる町の状況…見えてない、情報が必要 少子化・結婚に対する意識 若者：結婚後の経済的不安 高齢者：結婚に対して前向きになってほしい 高齢者は好きなものを見つけ生きがいに、若者は結婚意識の見直しを

グループ 4	
<サポートの担い手>	公の問題(年金減少、増税)
<空間>	茅ヶ崎は都市と地方の中間、海を活用できないか
<時間(過去は…)>	一時的に人が少なくなって再び増えるというサイクルがある 子どもを仕切る大人がいた 身の回りでは子供が増えたイメージ
<環境>	北口と南口の行き来が大変 施設の数足りない
<問題>	共働きが当たり前 ネガティブなイメージ 他人に申し訳ないという思い 一人にしない為の対策 情報が少ない 隣人の電話番号すら知らない
<個人>	犬の散歩をする人を多く見かける、それをきっかけにコミュニティを作れないか 個人情報の問題(接し方の問題) 食生活の問題(消費期限に気付かない) 賑やかなのは嫌いではない 自分たちの人生に対する劣等感はいらない 施設に対する選択はある
<まとめ>	誰がケアの担い手になるのか 老人ホーム等施設が足りない…誰が補うのか 問題はわかったが、どうしたらいいかわからない

討議 1 グループ 5	
<お金の支え>	年金制度が崩れてきた 昔と比べて働き方が変わってきた 医療費の高騰…補助を

<両親>	老老介護の問題 両親と離れる不安(生活が見えないことへの不安) 親は地元を離れたくない 家族がそばにいても不安 家族のことを男性は話したくない 家族と一緒にいても大変なことはある
<孤独>	家での過ごし方(パソコン・読書・何もしない) お金の問題より孤独なことのほうが不安 パートナーが亡くなった時、独りぼっちになることが不安 自分のことは自分で精神 孤独にさせない工夫が必要
<コミュニティ>	趣味を広げ、仲間を作る (現状)近所づきあいがない イベントの開催 仲間がどんどん亡くなっていく
<少子化>	子どもが病気の時、預ける場所がない 親が病気の時、子供をどうするか
<まとめ>	地域コミュニティ、近所づきあいの大切さ…老後の趣味生きがい 家族、配偶者の大切さ

討議 1 グループ 6	
<高齢者“個”の問題>	認知症の不安 介護問題 (情報提供に対し)実感がない 子ども扱いの介護 引きこもり(声をかけても出てこない) 退職後にコミュニティに入るのではなく早めに
<地域の問題>	車がないと生活が不便 全体的に閉鎖的(市民・近所づきあい等) 市が中心になって交通手段を増やしてほしい
<対策>	コミュニティバス・車が無くても生活できる環境 子どもの受け入れをまちで 高齢者訪問サポートを充実 子ども達と近くに暮らせるまちづくりが必要

(2) 討議2「健やかな生活と住み続けることができるまち」

グループ1	
＜在宅医療に対する感想＞	在宅は周囲に迷惑がかかる 本人の意思と周囲の考えの相違がある→マッチングのために面接が必要 (在宅は)不安が大きい…背景に病院からの安定したサポートがほしいという思い 専門的な知識が無い 在宅は不安だが病院・施設は期間が決まっているので希望通りにいかない
＜ケアシステムに対する感想＞	(ケアシステムについて)初めて知った 介護士の責任問題が考えられる コミュニティセンターがあっても対人関係の改善には直結しない 改善のためには利用者のコミュニケーションが必要 市民がいつでもだれでも集まれる場所(例：東京都の商店街) 気軽なお願いに対しても料金が発生してしまうのでは ケアシステムによって孤独死を防ぐ・早期発見ができるといい
＜ケアシステムを広めるために＞	行政は広報・市民は参画 健康な高齢者は無関心 家族のアドバイス ケアシステムのサービスをあらかじめ知る 男性が自宅・子育ての福祉に関わってほしい 誰もが担える役割がある 市内でサークル活動ができる場所が少ない お年寄りが集まる場所で話をする
＜まとめ＞	在宅はケアの質、精神的負担から不安がある 本人の思い(意思)がケアには必要 ケアシステムの周知、コミュニケーションが必要

グループ2	
＜在宅介護医療について＞	在宅についてもっと知りたい 経済状況によってケアが難しい→人員やお金の支援があれば… 子ども達に迷惑をかけたくない 病状の急変に対応しづらい (介護側の)休む時間外出の時間が取れなくなる・負担が大きい 身内がずっとついていてくれたらと思うが現実には難しい 人手(民生委員・介護士・家族)の不足
＜介護医療施設について＞	家族に迷惑をかけずに済む

	施設に入るまで時間がかかる 施設が足りない 転院になったりするのが不便 良い病院で死にたい 病状に応じてケアが変わる 良い施設に入れれば…
<在宅介護か施設に入るか>	どちらが良いか一概には言えない
<地域の特性・茅ヶ崎>	都会に近く住みやすい 元気な高齢者が多い 近所でのコミュニケーション取れている 自然や空気がきれい 買い物が不便
<提案>	定年はなくてもいい 保育と介護を一体にした考え
<まとめ>	在宅は、個々の経済状況・人員の関係で不安 一方で施設は期間・定員の関係で難しい 保育と介護を一体にした考えが良い

グループ 3	
<感想>	介護は家庭環境で変わる 問題に直面しないとわからない 近所のかかわりにも限界 在宅介護は身内しかできない・看取りは家族あればこそ 身内が少ないという問題
<在宅介護・看取りについて>	個人の価値観・本人の希望は人それぞれ 個人の自由と弱い人を守るのは別 介護で崩壊する過程もある 周りのバックアップあつての見取り 家で死にたくても無理なことがある・家で死ぬことが一番いいとは限らない 迷惑をかけてまで家で死にたくない 地域ボランティア 介護に直面していないとわからない 無関心から一歩踏み込むきっかけづくり 公民館の活用 訪問は大切・顔を見ることが大事
<豊かな地域社会への道>	自分が必要な時にしか情報を求めない 昔は近所に関心があった・地域のつながりは大事(井戸端会議)

	個人情報保護による孤立 一人でいる人をどうするか 役所の人が地域の孤立を把握する 誰かと話すことが大切 人との会話・コミュニケーション介護
<市役所にしてほしい>	情報提供→知らないことで行動に移せない 役所の人ボランティアを募る・市とボランティアの協働が必要 関心のない人をどうするのか
<市民パワーの活用>	ボランティアを若い母親にする 若い世代との交流 世代を超えた地域の活性化
<まとめ>	老後の生き方は個人の価値観を尊重すべき(多様) 豊かな地域社会のためには市民の力が必要(地域差がありそう?) 声掛け、訪問等のコミュニケーションがあればいい

グループ 4	
<問題>	親がひとり(住まい)だと不安 ボランティアの人数が足りない(仕事があるのか) 子供に面倒を見てほしいと言にくい 子どもが近くにいない
<理想の生活>	ピンピンコロリ(健康を維持したまま寿命) 多様性のある社会
<交流>	ゴミ捨て場を束ねる 回覧板を見ること 話し相手がほしい 近所とのコミュニケーションをとる 子ども達と一緒に住む 顔見知りになること 会話だけでは無理
<自発性・ボランティア>	自分でボランティアを探す コーディネーター 地域で連絡を取り合う やってあげるのではなく人間関係
<介護施設>	値段が高くて入れない 介護の仕方を市民に教えていく 理想はピンピンコロリ そのために近所との交流や自ら動くことが必要 顔見知りを増やし親族以外の交流→孤独を防ぐ・話し相手 ボランティア

	仕事を退職した後、ボランティアで地域交流を図る 行動から輪を広げる
--	--------------------------------------

グループ 5	
<状況認識>	実際どうしたらいいかわからない・経験がない 在宅介護に関心はあるが実際できるか不安 少子化による介護する側の人数の減少 在宅介護・医療に対する知識の不足 植物状態になったら耐えられるか(安楽死という選択肢も) 施設に入りたくても入れない 問題を行政のせいにしたがる傾向 核家族化が進む時代では在宅は難しい
<在宅医療の不安>	介護側の負担が大きい 精神的な疲労・精神的なダメージ 先が見えない(時間) 住宅のスペースの問題 ハードルが高い 家族とヘルパーのバランスが取れた介護がいかにかにできるのか
<在宅介護医療のメリット>	被介護者本人の精神安定(病院＝病人という意識) 国民の負担減少 家にいれば趣味ができる
<今後の方向性>	介護者に嫌がられてまで在宅介護をされたくない 本人・家族の意思が重要 民間参入 医療機関 OB のサポート 独り身同士での支えあい
<まとめ>	在宅医療には不安(精神的負担) 一方でメリットも 本人・家族の意思の尊重 支える主体が必要(民間・医療機関 OB)

グループ 6	
<在宅介護医療のイメージ、不安>	子ども(家族)に迷惑をかけたくない 身体・精神の負担 施設に入っても家に帰りたいがる人もいる 本人の思い通りにはいかない 施設は少ない 延命治療はかわいそう 実家と自家が離れているので介護は難しい(施設) 経済的な不安

	子どもからは言いづらい 年代別で考えが違う 子どもがいない場合どうするか 元気なうちから在宅医療ができるといい 孤独死は悪いイメージなのか 近状づきあいにしても高齢化している
<希望・要望>	幸せに死にたい・苦しい思いをしてまで延命したくない 状況がわからない 世話をかけたくない 自分のことは元気なうちに自分で決めておきたい 判断できなくなる前に計画するべき 希望は在宅だが、現実的には病院 準備期間が必要　すぐに相談できる医師が必要
<解決法>	健康な時に家族に相談する　先に計画を立てる 子どもがいる地域の近くで入所したい 子どもにも生活があるので在宅以外が良い 在宅より施設　入りやすい施設を作るべき 自分にとって最良の選択をしたい
<まとめ>	在宅には不安がある(子供への負担 介護が必要になる前に家族や医師に相談して方向性を決めておく 自分で選びたい(在宅・病院・施設)

(3) 討議3「高齢者を支えるから、高齢者とともに暮らすまちづくりへ」

グループ 1	
＜情報提供の感想＞	柏市のようなことができればいい 定年後はさらに働くか、趣味に生きる 地域によって活動に対しての熱量が違う 先の明るい議論 誰でもできる参加は少ないのでは 定年後の仕事 お金をもらってする活動はボランティアとは違う
＜茅ヶ崎の問題＞	男性は仕事中心・ベッドタウン 茅ヶ崎市を知らない・参加意識が低いのでは 茅ヶ崎には企業が少ない 働きたくても働けないシニア世代がいる 働きたいという意欲を失わせないこと
＜できること＞	地域行事への高齢者の参加 やりがい創出→地域のニーズ・需要を見つけることも大事 拠点(サポセン)の強化 登録制から役割分担 シルバー派遣を活用できるような環境整備 趣味に生きる人

グループ 2	
＜ボランティアについて＞	ボランティアをしたいが自分の趣味も楽しみたい 茅ヶ崎の個々の活動を包括して事業をするべき 社会に役に立てることがしたい ボランティア活動はつながりができる 仕事を辞めると手持ち無沙汰になる…仕事ばかりではなく趣味を生かすことも大切
＜高齢者の活躍の場＞	若者だけでは言いにくいことでも年配の方が言うことでうまくいくこともある 安心感がある ボランティアセンター 通学路での旗振り・子どもの見守り 地域のことをよく知っていて助けてくれる
＜ボランティアの課題＞	活動の情報がほしい 茅ヶ崎で事業をやるには金銭面は大丈夫なのだろうか 勤労世代と地域の接点が少ない

＜今後の方向性＞	情報の発信を活発に ボランティア等、嫌々でもやるほうが健康にいいのでは 受け取る側にもっと見てもらう工夫を 継続して活動していくとよい ボランティアセンターの特性を生かして協力するべき
----------	---

グループ 3	
＜情報提供の感想＞	柏市の例は参考になる 楽しく働ける環境が良い・生きがい 農地を持つ人が活動の場を作る 自営業は死ぬまでできる 定年の年齢を伸ばしてほしい 小金井市では愛が農地を借り、市民に貸し出す事業を行っている
＜退職後＞	オリンピックの活用 1～2年はゆっくりして、その後考える 違うところで仕事をしてみたい 専門職は難しい
＜茅ヶ崎での老後＞	コミュニケーションの活性化(会話) 文化の活用(祭り)・文化を取り込む 若者をサポートする活動 経験知をいかすのも生きがい
＜活用＞	人材の登録制度 特技・得意分野を生かす・キャリアが役に立てばよい 様々な年代を交えた話し合い 情報発信 市民をいかに参加させるか 市民の意識を変える 自信・やる気 市民討議会等のファシリテーターを高齢者がやるのはどうか
＜まとめ＞	得意分野、資格等の登録制度と斡旋をつなげる 老若世代問わずに行う(地域)

グループ 4	
＜どうなりたいのか＞	動けなくなる前にできること(連携) 得意分野を生かした活躍の場 次につながる仕事＝生きがい
＜必要なもの＞	情報発信(市) 地域の人参加(市の介入、参加のきっかけ)

	市民同士のサポート 就職あっせん 勉強できる場・就労セミナー(民生委員の仕事)
<具体的な活動>	体を動かす 介護(心豊かな、コミュニケーション) 病院と市役所の連携 保育・子どもたちの見守り
<まとめ>	やりがいのある仕事・自分のスキルを発揮できる仕事 見つけるために「地域の就労セミナー」等ステップを設ける必要がある 介護、保育(子供たちの見守り)等ができるのではないか

グループ 5	
<情報提供の感想>	茅ヶ崎で仕事を作ろう 人生二毛作(地域社会へのかかわり) 二毛作をするにもお金がない 年金をもらえるまでの5年間をどうするのか(収入が無い) 働く場所があるか(新しく作る) 家から気軽に行ける職場 自分に合った働く場 社会貢献したいという気持ち ただ情報が足りない・情報を伝わりやすくしてほしい 仕事一筋で来ると定年後の生活に切り替えられない 定年前の準備講座
<問題>	学童が少ない 様々な年代が集まるコミュニティが無い
<ボランティア>	種類を増やす コミュニケーションをとるきっかけとしてのボランティア お互いのペースを認め合う ボランティアに関する情報の収集・提供(事例等) 地元が困っていることを知りたい
<そのほか>	専門家の知識がほしい 湘南らしい実験(専門家の招致)
<まとめ>	自分に合った仕事の間を、お互いのペースを認めながら作る ボランティア等の知識、情報がほしい あれば参加しやすい

グループ 6	
＜方向性＞	70 歳まで働きたい 早めの(仕事を)やめて好きなことをしたい 自分のやりたいことをするべき
＜情報の発信＞	積極性が無い 次世代、若い世代に考えてもらいたい 情報が少ない 情報はあるが見る機会がない どう伝え、広めるのか どこに相談するのか
＜具体的な提案＞	次世代へのバトンタッチ 広報を見て情報を集める 子どもの親代わりのような存在になる 自分でやりたいと思えることが元気でいられる理由 なんでもいいから趣味を見つける 近所づきあいなどもっとオープンに人々とかかわりたい 高齢者にノウハウ(経験)を提供してもらう 隣近所の付き合いが大切
＜まとめ＞	70 歳以降も働きたい人、仕事を辞めて趣味をしたい人、それぞれいる 隣近所の付き合いが大切

(4) 書記の感想

先日は、市民討議会の書記のお手伝いをさせていただき、ありがとうございました。実際に街に出て学ぶ機会が少ない私たち学生にとって、本当に貴重な経験をさせていただきました。後日、参加した学生から募りました感想をまとめさせていただきました。

文教大学 国際学部 参加者一同

学生 A

テーブルによって、進行が異なる場合や、レジュメ（進行用マニュアル）どおりでしか進まないこともありました。それにより、討論者との話題のズレを感じる時がありました。進行については、事前に十分に話し合っておく必要性を感じました。また、リーダー決めが速やかに進まなかった場合は、いつも討論の雰囲気が悪くなってしまい、気になりました。

とくに、3 回目の討議は、テーマが難しいと思いました。情報提供があっても、日常的な話題から離れているように感じた参加者が多かったようです。討論数も少なく、そこからレジュメ通りに話を進めるのは難しく、結論が曖昧なところがありました。

お昼の空いた時間に、暇そうにしている参加者がいました。そこで、前回の討議会資料や施策に関する書類などを配布してもいいと思いました。実際に前回の討議会のまとめや参考資料が欲しいという方もいました。

学生 B

準備段階では、討議の内容が（個人的に）暗いと感じていました。模擬討議会後は、活発な議論が起こるか懸念していました。しかし、自分の担当したグループでは、素晴らしい時間を過ごすことができ良かったです（ただ、最後の討論で5人のグループ中2人が自己紹介以降1度も喋ることがなかったので、議論の中身も最終の発表も満足いくモノにならなかったと感じました）。

資料が適切で、情報提供の先生がとても熱心に説明してくれたため、私も聞いていて楽しかったです。他の参加者の方たちもそうだったと感じました。

全てのグループの報告を聞いた後に、ビー玉での投票があります。ここで、自分のグループに全てのビー玉を投じる人も少なくなかったと感じました。公平性という意味で、投票の方法が気になりました。

学生 C

「介護」や「老い」をテーマとするということは、否が応でも参加者自身のプライベートに踏み入ったり、知り合ったばかりの人を相手に自分のプライベートをオープンにしたりする必要があります。今回の参加者は、自分が置かれている状況を躊躇せずにオープンに話していました。一方で、討議をするにあたって必要となる情報（主に他者の状況）を得るために、他者の心情に遠慮をしながら話し合っている様子が伺えました。

参加者の自己紹介をきいていると、ボランティアに参加したりジムに通ったりしているようなアクティブな方が多くいました。だからこそ、こういった場に足を運ぼうという気になるのかなとイメージできました。

木村先生のプレゼンの素晴らしさももちろんありますが、討議の内容が、近い将来、自分の身(もしくは大切な人の身)に起こる危機ということもあって、参加者全員が真剣に情報提供に耳を傾けていました。

討議では、同じまちに住んでいる人たちとはいえども、多種多様な人生を送り、悩みを持っているのだと改めて実感し、感動しました。市民の方が、茅ヶ崎市に働く場がないと認識していることもわかりました。また、ベッドタウンだとも言っていました。茅ヶ崎の北と南では風土が違っていると感じている意見が出ていたことも印象的でした。

討議は、進行側の力量に左右されると感じました。グループにまとまりがあれば問題がありませんが、そうではない時、どのように議論を進めるべきか、考えておく必要があると思います。会場はある程度狭い方が良いと思います。今回、市役所のホールでやった時よりは、参加者間の距離感、スタッフと参加者の距離感が近かったように思います。市の職員さんがアロハシャツであったのも好印象でした。

学生 D

今回、書記として参加させていただいて、参加者の方々が高齢化社会や在宅看護に予想以上に関心を持っていたことにとても驚きました。私自身、もし自分が介護する側、又はされる側になったら、という観点でお話をうかがい、色々と考えさせられました。

ディスカッションの様子を見ていて気になったのが、リーダーを同じ人が何度も担当していたことです。前のグループでリーダーをしていた人に、次のグループでも半ば無理矢理リーダーを任せるといったことがあったので、あらかじめこちらでリーダーを指名する方が良いと感じました。

学生 E

「豊かな長寿社会に向けて」という大きなテーマではありましたが、情報提供者の木村先生の話聞き、私たちゼミ生を含め参加者の方々が日本社会、茅ヶ崎の現状を知ることができました。

深刻な少子高齢化をテーマとして扱うことによって、暗く重たい雰囲気議論になるのでは…と懸念していましたが、全くそんなことはありませんでした。むしろ、全体的に「どうすれば高齢者の方が楽しく過ごすことのできる社会を作れるか」ということを考え、とても前向きな議論をされていた印象があります。一人ひとりが自分や、家族の人生を考え、より良くしていこうと考える機会を通して、ポジティブな気持ちになる市民討議会であったと感じます。

学生 F

三度目の参加ではありましたが、テーマによって討議会全体の雰囲気が違うので、毎回とても興味深いです。

今回は福祉がテーマになっていたこともあり、市民の皆さんの強い思いを特に感じました。また、討議会など自分が知らない新しい体験に自ら進んで取り組むことで、自分の人生をより充実したものにしたいという思いから参加してくれた方がおり、とても印象的でした。市民討議会は意見収集や集約という機会の場合だけではなく、市民という人を成長させてくれる場でもあることを今回改めて感じることができました。

学生 G

今回も貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

さて、今までの討議会と比べても、参加者のみなさんの意識の高さが抜群だった回のように思います。事前の実行委員会の打ち合わせでも「若い方が参加してくれるだろうか？」という懸念がありましたが、サンプリング数の調整などの市民自治推進課のみなさんの配慮のおかげもあって、年齢・男女比も適正にみえました（あくまで主観ですが）。

年齢を問わず本当にさまざまな方が議論の場で活躍する一方、他の参加者に同調するのみで討議会を「なんとか乗り切った」参加者の方もいるのではないかと思います。それは、討議会だけの問題ではないですが、日本人特有の状況かもしれません。事実、発言数が少ない方もみかけて、できるだけ全員が対等に話せる地ならしをするためのアイスブレイクの必要性を再確認しました。

また、青年会議所の方も市役所職員の方も、協力的なコミュニケーションがとれていました。室内の温度調節や、ホワイトボードのとっさの準備など、対応が素早かったです。常に積極的に温かい雰囲気スタッフ側が保っていたことが、本当に素晴らしいと思いました。討議会という市民協働の新しいスタイルを模索するスタッフ側の協働姿勢は、市民にとってまさに良きロールモデルといえそうです。茅ヶ崎市らしさを感じました。

学生 H

議論の内容や充実度については、3 つ目の議題が少々難しく、参加者の方もどのように議論を進めていいのか困惑しているようにも見えました。しかし、参加者のみなさんが、自分の意見だけを主張するのではなく、他の参加者の意見を取り入れてグループの意見となるよう、さらに磨き上げようとしていたことがとても強く印象に残りました。

他方で、市役所職員の方や直接議論に参加しない方が一つのグループの傍でずっと聞いていると、参加者の方も少し話しにくいように感じました。これは、会場の広さや、市民意見を聞こうとする運営側の目的から考えれば、仕方ないことなのはわかっています。けれども、場所を分散するか、もしくは長時間 1 つのグループの傍にいないようにするなど、配慮や工夫が必要だと思います。

学生 I

市民の方々も、はじめは緊張している様子でしたが、慣れてくると雑談や実体験を交えながら和やかな雰囲気で討議が進められていました。ビー玉での投票形式も、結果が目に見えてわかりやすいので良かったです。結果を競うため、回数を重ねるごとに参加者のやる気が上がっているように感じました。

ランダムに選出されたとはいえ、参加者の方々の意見を聴くと、私が担当したグループでは社会参加や社会貢献意識が高く、高齢社会をよりよくするためにボランティアやシニアの社会参加の重要性を訴える方々が多かったです。参加者全員でポストイットを整理したり、まとめたりという作業もコミュニケーションの一部になり、それも討議の上で重要なポイントであるように感じました。

学生 J

幅広い年齢層の参加者がいて、年の差を感じさせることなく、若い人も遠慮せず意見が言えていたと思いました。また、印象的だったのは、発表の場でリーダーが参加者を注目させるため場を盛り上げていたことでした。気になった点は、あまり意見を積極的に言わなかった人もいたことです。

学生 K

討議会に今回初めて参加しました。初めての雰囲気や市民の皆さんの少しピリピリとした雰囲気に、最初は緊張していました。お互いが初めて顔を合わせる人同士で、いきなりテーマに沿って討論をしはじめるのは、かなり勇気のいることだと思っていました。しかし、時間がたつにつれて、話しやすい雰囲気になっていきました。参加者の皆さんが、茅ヶ崎市や世間に対していろんな思いを持っていて、その思いを確認し合うことができ、とても勉強になりました。

書記の経験では、始めはとても緊張して、ポストイットを貼ることや意見をうまくまとめるのに必死でした。参加者の方が貼るのを手伝ってくれ、とても助かりました。とくに印象に残ったことは、学生である私たちの意見を必要としてくださる方がいたことです。私たちは書記としてお手伝いをしに来ているだけで、発言などはできませんが、若い者の意見を聞きたいと言って下さり、うれしく感じました。また、在宅医療について、実際の経験をした職員のかたのお話が聞け、今後自分が親などを介護することになった時に役立つ話で、いろいろと考えさせられました。

討議会の時間は、やや長いように感じました。会の終盤、私の担当する班では、6人中3人しか話をしていませんでした。集中力や体力が最後まで持ち切れず、参加者全員の話し合いが維持されるよう、集中力や体力にも配慮が必要だと感じました。

学生 L

今回初めて討議会のお手伝いをさせていただきました。

抽選結果を受け、多様な年代の人たちが、日曜日の朝から集まってくれたことに驚きました。それぞれに考えや意見をお持ちで、機会があれば他の人たちと意見や情報の交換をしたいと望んでいる人が多かったと思います。書記として話を聞いていたら、「こんな討議ができるようなカフェがあれば楽しそうだな…」とささやいている方がいました。その方は、普段は仕事をしていて、なかなか近隣の人たちと交流できないそうです。その地域で行われている支援の情報などを得る機会が少ないため、気軽に参加できる情報交換ができるコミュニティ的なものがほしいと思っているようでした。

今回話し合われた「介護」、「在宅医療」、「高齢者の活躍の場」は、近隣にたいする興味関心につながっています。けれども、討議を通じて、「何をどうすれば良いのかわからない」と情報や知識の不足が指摘されたり、金銭面や漠然とした将来への不安が語られたりしました。特に、仕事をしている比較的若い世代の方々の間で、こうした発言が目立っていたことが印象に残っています。

改善点は特に思い当たりません。これからも、討議会のように市民が意見を言い合える場を提供することが良いと思います。さすが湘南地区！！ 男女問わず綺麗に肌が焼けている参加者が多かったです。小麦色の肌が眩しかったです。

学生 M

全体的に、ひとりひとりが十分に発言していたと感じています。誰かの主張に対して賛成するだけでなく、反論もあったので、議論として成り立っている印象を受けました。参加者全員が、茅ヶ崎市の問題について真剣に向き合おうとしていることが分かりました。参加者の年齢層の幅が広がったので、高齢者側と若者側の二つの立場の意見がきけました。

議論の進め方が非常に上手いと感じました。最初はなかなか意見が言えなかった参加者に対しては、上手く話せるように話を振ってくれていたのも、最終的には全員が意見を主張できる環境ができていたと思います。

討議中、スタッフの方がそれぞれのグループの様子を見に来るのは良いのですが、人数が多かったせいか、参加者の気が散って話にくそうにしていた場面がありました。参加者が圧迫感を感じないように、配慮が必要ではないかと思いました。

学生 N

年配の方がたくさんいらっしゃると思っていましたが、20代～40代の参加者も多く、驚きました。休日にもかかわらず、討議会に参加するということは、茅ヶ崎の将来をしっかりと考えているのだと思いました。

皆さん自分の意見がちゃんとあり、他者の意見も踏まえつつ、それをしっかり主張できるのが素晴らしいと思いました。市の職員の方だけではなく、自分達で茅ヶ崎のこれからを良くしていきたいという意欲も伝わりました。皆さん茅ヶ崎に愛着があり、茅ヶ崎が好きなのだなと感じました。

議論するテーマが大きすぎるものがあつたので、もっと対象を絞ったテーマだと分かりやすかったと思います。

学生 O

初めて参加させていただいたのですが、私が担当した班の参加者全員が、自分の意見をしっかり持っており、積極的に発言する姿勢に大変驚きました。また、討議中も全員が和やかな雰囲気での発言のしやすい環境を作っていて大変良いと思いました。

今回のテーマは、討議しやすい内容で、参加者の方の提案や改善点はとてもいい意見が多かったと感じました。その意見に参加者全員が賛同し熱心に話し合う姿がとても印象に残りました。

学生 P

参加者には、なかなか発言をしない方と、話をリードして下さる方がいました。発言をあまりしない方も、一度発言をすると、その後はスムーズに発言をしていました。参加者それぞれに発言のタイミングを設けた方が、より確実な集団としての市民の声がわかるのではないかと感じました。

市民の皆さんの発言をなるべく短く、かつ本来の意味を含めたまま明確にメモに書くのは、なかなか難しいことでした。おそらくポストイットの中には個人的に解釈して書いてしまったものもあったと反省しています。

4 講評

平成 26 年度市民討議会

「いつまでも暮らす・楽しむ 茅ヶ崎ライフ～わたしたちの豊かな 長寿社会に向けて～」 を振り返って

我が国は、世界でも類を見ない速さで人口の高齢化が進行し、2030 年には、65 歳以上の高齢者が人口の 3 分の 1 になると予測されています。また、平成 25 年度の「高齢者白書」によると、我が国の総人口が減少傾向を示す一方で、65 歳以上の高齢者人口の割合は 24.1% を超え、5 人に 1 人が高齢者という超高齢社会になっているとしています。

こうしたことは同時に、いまだ世界のどの国も経験したことのない超高齢社会が、すでに我が国に到来していることを意味し、とくに、大きな課題として指摘されているのは、首都圏や近畿圏、中部圏などの、いわゆるベッタウンとして急激に人口の増大をもたらした大都市近郊地域の急速な高齢化の進展にあります。高齢者人口が増えるということは、相対的に要支援や要介護高齢者が増えることとなり、あわせて介護や医療の需要が急速に高まるということに必然的につながっていきます。

要介護状態は「突然にやってくる」ものであり「介護は一人で背負ったら、こんな辛いものはない」とも言われます。介護の在り方や自分が要介護状態になったらどうしてほしいのかを考えたいうえで、「サービスの利用・家族の分担・地域からの支援」という視点から“分かち合いのまちづくり”にみんなで力を注いでいくことが望まれています。

一方、現在の高齢者は、人生 90 年時代到来などと言われるように、単に寿命の長寿化だけでなく多様な経験と知識、高い技術と判断力を兼ね備えていることに注目が集まってきています。今日の高齢者が持つ、こうした能力とパワーを地域社会のなかにしっかりと活かすことこそ、“新たなまちづくり”の基本であると考えます。

このことをしっかりと踏まえ、わたしたちの身近なところで、しかもできることから着実に取り組むことが長寿社会のまちづくりの出発点になるものと確信しています。

今回の茅ヶ崎市民討議会では、参加された多くの方々の活発な意見に、まちづくりのパワーの萌芽を見ることが出来ます。私は、課題提起の報告者として招かれたにもかかわらず、茅ヶ崎市民の屈託のない発言に接し、ランダムに選出された市民とはいえ、グループごとに前向きで意欲的、しかも個性的な方々の声から“茅ヶ崎市民の素直な感性”に触れ、感動を覚えました。さらに、このような取り組みを平成 21 年度から行っていること知り、文教大学関係者や青年会議所、そして市役所職員の方々の努力に敬意を表したいと思います。

当日の総括でも述べましたが、今回参加された市民の方々を、これから取り組もうとする「茅ヶ崎市長寿社会のまちづくり」事業の主要な“担い手”として、ぜひ活かされることを心から願うものです。「人と人がふれ合える新たなまちづくりに、共にチャレンジしましょう」

東京大学高齢社会総合研究機構 木村 清一

5 アンケートの結果

(1) 事前アンケート結果

(※無回答、重複回答の設問があったため、合計回答数が必ずしも一致しない)

【参加者の属性について】

設問 1, 職業		
①	農業・漁業	0
②	自営業・経営者	0
③	自由業	0
④	家事手伝い	0
⑤	公務員・団体職員	2
⑥	専門技術職	3
⑦	事務職	2
⑧	販売・サービス職	1
⑨	製造・労務職	2
⑩	パート・アルバイト	2
⑪	家事専業	7
⑫	学生	1
⑬	無職	6
⑭	その他	3

設問 2, 家族形態		
①	単身	1
②	(自身の)夫婦のみ	10
③	未婚の子どもと同居	9
④	既婚の子どもと同居	0
⑤	親世代と同居	6
⑥	三世代以上が同居	3
⑦	その他	1

設問 3, 住居形態		
①	持ち家（戸建）	21
②	借家（戸建）	0
③	集合住宅（分譲）	4
④	集合住宅（賃貸）	4
⑤	公営住宅	1
⑥	社宅	0
⑦	その他	0

設問 4, 市内での居住年数(6 については重複可)		
①	1 年未満	0
②	1 年～5 年未満	2
③	5 年～10 年未満	1
④	10 年～20 年未満	4
⑤	20 年以上	22
⑥	生まれてからずっと	3

設問 5, 茅ヶ崎での定住の意向		
①	住み続けたい	19
②	できれば住み続けたい	10
③	できれば転出したい	0
④	転出したい	0
⑤	わからない	1
⑥	その他	0

設問 6, 平日の平均在宅時間(睡眠時間を除く)		
①	2 時間未満	0
②	2～4 時間未満	5
③	4～7 時間未満	10
④	7～12 時間未満	9
⑤	12 時間以上	5
⑥	その他	0

【参加の動機について】

設問 7, 市民討議会の手紙(参加依頼)が届いて、どのように感じましたか		
①	面白そう	8
②	良いとりくみ	7
③	新しいとりくみへの期待	13
④	選ばれてよかった	4
⑤	なぜ討議をするのか不明	1
⑥	実際に何をするのか不安	9
⑦	つまらなそう	0
⑧	とくに感想はなかった	2
⑨	その他	1

設問 8, なぜ討議会への参加を決意しましたか		
①	討議会が興味深かった	15
②	テーマが興味深かった	5
③	日程的に都合がよかった	11
④	市のために協力したかった	5
⑤	市民の役割として大切だと思った	10
⑥	新しいことにチャレンジしたかった	6
⑦	市から手紙が届き参加しなければならないと思った	2
⑧	日頃から市に言いたいことがあった	1
⑨	その他	1

設問 9, 謝礼の有無と参加決意の関係について、どのようにお考えですか		
①	必要だと思った(謝礼がなければ参加しなかった)	5
②	不要だと思った(謝礼がなくても参加した)	11
③	どちらとも言えない	11
④	その他	2

設問 10, 謝礼の金額について、どのように思いますか		
①	多いと思った	4
②	妥当だと思った	17
③	少ないと思った	0
④	その他	7

【高齢化社会について】

設問 11, 高齢化社会では地域やご自身の生活のレベルでどのような変化が生じるかイメージできますか (〇は1つ)		
①	具体的にイメージできる	2
②	なんとなくイメージできる	18
③	イメージできない	7

設問 12, 現時点で、高齢化社会に備えて地域での支え合い活動等を行っていますか。(〇は1つ)		
①	行っている	3
②	行っていない	22
③	その他	2

設問 13, 高齢者が地域や社会の担い手として活動することについてどう思われますか (〇は1つ)		
①	推進するべき	12
②	どちらかというと推進するべき	10
③	どちらとも言えない	6
④	どちらかというと推進するべきではない	0
⑤	推進するべきではない	0

設問 14, 病院ではなく在宅で医療を受けることについてどう思われますか (〇は1つ)		
①	在宅での医療に安心できる	4
②	在宅での医療にどちらかというと安心できる	1
③	どちらとも言えない	12
④	在宅での医療にどちらかという不安を感じる	10
⑤	在宅での医療に不安を感じる	1

設問 9, 謝礼の有無と参加決意の関係について、どのようにお考えですか	
〇必要。私はなくても参加したが、興味のない人へのきっかけづけとして必要	
〇なくても参加したが、真剣さや参加者の確保に必要かも	

設問 10, 謝礼の有無と参加決意の関係について、どのようにお考えですか	
〇不要	
〇市民活動に謝礼金は必要ないと思う	
〇5,000円よりも6,000円のほうが参加者が増えたのではないかと思います	
〇お金ではなくて、茅ヶ崎市内で使ったお金の商品や市民会館ホールの残ったチケットなど	

設問 12, 高齢化社会に備えて地域での支え合い活動を行っていますか。	
〇地域としてではなく、その時々で必要とされる場面で、支えられるときは協力している	

(2) 事後アンケート結果

(※無回答、重複回答の設問があったため、合計回答数が必ずしも一致しない)

設問 1, 今回の市民討議会について感想や印象をお聞かせください		1	2	3	4	5
		そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかとも言えないそう思わない	そう思わない
A	市民討議会はおもしろかったですか	25	5	1	0	0
B	討議の進め方はわかりやすかったですか	19	9	2	1	0
C	進め方に関する説明は十分だと思いましたか	15	9	7	0	0
D	各回の情報提供で、討議がおこないやすくなりましたか	15	14	2	0	0
E	討議1のテーマは、話しやすかったですか	13	12	2	4	0
F	討議2のテーマは、話しやすかったですか	11	15	2	2	0
G	討議3のテーマは、話しやすかったですか	14	10	5	1	0
H	討議を通して個人意見がより成熟したと感じられましたか	14	13	3	1	0
I	グループでの意見は、十分な合意により形成されましたか	17	10	2	2	0
J	投票によって得られた意見は、満足のいく内容でしたか	11	10	8	0	1
K	市民討議会は市民の声を反映させるのに有効な手法と感じましたか	17	13	0	1	0
L	討議に参加して、市民が「まちづくりの主役」という印象が強まりましたか	14	11	4	1	0

設問 2, グループごとの話し合いは、円滑に進みましたか		
①	円滑に進んだ	18
②	やや円滑に進んだ	9
③	どちらとも言えない	0
④	やや行き詰まったときがあった	3
⑤	何度も行き詰まった	0
⑥	その他	0

→どのようにすれば、より活発な討議が出来ると思いますか。下欄にお書きください。

(意見の一部を概要で掲載)

○ファシリテーターとリーダーの技量によって、討議レベルが異なる印象を抱きました。目線合わせと対話の進め方に工夫が必要だと思う。
○今回の議題は身近で私達が避けては通れない内容でした。ですので、今回のような身近な議題はディスカッションしやすいように感じました。ただもっと具体的なテーマにしぼめてほしいという意見もありましたので、もう少しテーマを狭めてもいいかもしれません。
○テーマを具体的にする
○グループの人数が適切であった
○木村先生のお話はとてもわかりやすく、感銘を受けました。お話を伺っただけでも、この討議会に出席させていただいた価値があったと思います。討議のテーマは漠然としている部分もあり、もっと絞っていただいた方が良かったと思います。とても今後の参考になりました。
○議論の流れ、どの段階にあって何の議論をしているのかを、グループ全員が理解している状態を作ること
○もう少しゲーム的要因があれば
○今のやり方で問題があるとは思えない
○話す前に紙などで自分の意見をまとめるなどすればよかった。でも、人数も少人数だったので、話しやすかった。発表の経験もできてよかった。
○もっとさまざまな年齢層がいたらよかった。高校生くらいから80代後半くらいまで
○やはり少人数で意見が出やすくするのはいいと思いました。
○今日のように文教大学のお手伝いなどがありよかった
○スタッフの方々の中にも、是非高齢者の方に参加していただきたい。実際の経験など、意見を聞けると思います。
○課題が大きすぎる。もう少ししぼった内容にしたほうが良かったのでは
○若い人が年上の人に意見するのは、すこし遠慮ぎみだったのかもしれない
○司会者が時々情報提供を出してくださると意見が出しやすい

設問 3, 討議の際、1つのテーマについて平均して何回くらいお話しされましたか		
①	10回以上	4
②	7～9回	1
③	4～6回	21
④	1～3回	3
⑤	0回	0
⑥	わからない	1

設問 4, 市民討議会ではじめて顔を合わせる他の市民との会話について、どのように感じましたか(○はいくつでも)		
①	さまざまな考え(発想)が聞ける楽しさ	27
②	さまざまな世代の意見が聞ける楽しさ	26
③	同じ茅ヶ崎市民としての共感や連帯感	12
④	はじめて会う人との会話における抵抗感	2
⑤	意見を言うのになれておらず、話にくい感じ	2
⑥	その他	0

設問 5, 今後、同様に市民討議会の案内が届いた場合、何を条件に参加を決めますか		
①	日程	13
②	内容・テーマ	11
③	謝礼の有無と金額	2
④	案内があればぜひ参加したい	7
⑤	条件を問わず参加しない	0
⑥	その他	0

設問 6, 市民討議会に参加して、謝礼の金額について、どのように思いましたか		
①	多いと思った	0
②	妥当だと思った	21
③	少ないと思った	5
④	その他	4

設問 7, 市民討議会を終えて、高齢社会では地域やご自身の生活レベルでどのような変化が生じるかイメージできましたか		
①	具体的にイメージできた	7
②	なんとなくイメージできた	22
③	イメージできなかった	1

設問 8, 討議により、それぞれの討議のテーマのイメージが深められましたか。それぞれについてお答えください 【長寿社会の状況把握】		
①	深まった	12
②	やや深まった	6
③	どちらとも言えない	2
④	やや深まっていない	0
⑤	深まっていない	0

設問 8, 討議により、それぞれの討議のテーマのイメージが深められましたか。それぞれについてお答えください 【健やかな生活を営み住み続けることができるまち】		
①	深まった	6
②	やや深まった	21
③	どちらとも言えない	3
④	やや深まっていない	0
⑤	深まっていない	0

設問 8, 討議により、それぞれの討議のテーマのイメージが深められましたか。それぞれについてお答えください 【高齢者が生きがいを持って活躍できるまち】		
①	深まった	8
②	やや深まった	18
③	どちらとも言えない	3
④	やや深まっていない	0
⑤	深まっていない	

設問 9, 情報提供①ではどのような情報が印象的でしたか。(あてはまるものすべてに○)		
①	高齢化が都市部を中心に進行すること	19
②	看取り難民が発生すること	12
③	80歳を超えると介護認定、認知症の確立が上がること	18
④	介護状態になる要因	7
⑤	孤立・孤独・閉じこもりから様々な課題が発生すること	19
⑥	印象的だった情報はない	0
⑦	その他	1

設問 10, 情報提供②ではどのような情報が印象的でしたか。		
①	市職員による住宅医療の概要についての説明	11
②	在宅での看取りの体験談	21
③	印象的だった情報はない	1
④	その他	1

設問 11, 情報提供③ではどのような情報が印象的でしたか。		
①	高齢者の定義は50年以上前のものであり、現代の実感に沿っていないこと	11
②	高齢者は体力的にも認知能力的にも活躍の可能性があること	20
③	多くの高齢者が 70 歳まで働きたいと思っていること	9
④	柏市での取り組み	21
⑤	プチタイム就労等の高齢者の多様な就労の携帯	12
⑥	印象的だった情報はない	0
⑦	その他	0

設問, 12 本日の討議会を受けて、高齢者が地域や社会の担い手として活動することについてどう思われますか		
①	推進すべき	24
②	どちらかというと推進するべき	5
③	どちらとも言えない	1
④	どちらかというと推進するべきではない	0
⑤	推進するべきではない	0

設問 13, 本日の討議会を受けて,病院だけでなく在宅で医療を受けることについてどう思われますか		
①	在宅での医療に安心できる	0
②	在宅での医療にどちらかいうと安心できる	3
③	どちらとも言えない	16
④	在宅での医療にどちらかという不安を感じる	8
⑤	在宅での医療に不安を感じる	1

(3) 不参加者アンケート結果

【参加者の属性について】

設問1, 年代		
①	20歳代	32
②	30歳代	45
③	40歳代	39
④	50歳代	37
⑤	60歳代	47
⑥	70歳代	39
⑦	80歳代	12
⑧	90歳代以上	3
無回答		2
合計		256

設問2, 性別		
①	男性	73
②	女性	147
無回答		36
合計		256

【市民討議会について】

設問1, 市民討議会について、知っていましたか。		
①	よく知っている	1
②	少し知っている	24
③	言葉を聞いたことがあった	49
④	初めて知った	180
無回答		2
合計		256

設問2, 茅ヶ崎市市民討議会の案内が届いたとき、どのように感じましたか。		
①	面白そうに思った	39
②	なぜ自分に届いたのか不思議に思った	164
③	分からない	28
④	その他	18
⑤	怪しいと思った	0
無回答		7
合計		256

設問3, スケジュールについて		
①	丸1日は長時間に感じる、半日程度だったら参加したい	174
②	丸1日はちょうど良い	47
③	もう少し時間をかけるべき	7
④	もっと日数をかけるべき	5
無回答		23
合計		256

設問4, 謝礼（5,000円）について		
①	多いと感じた	22
②	少ないと感じた	17
③	妥当だと感じた	141
④	不要だと感じた	46
⑤	その他	17
無回答		13
合計		256

設問5, 今回参加されなかった理由は何ですか。（複数回答可）		
①	今回は日程が合わない	103
②	土日は都合がつかない	81
③	興味がないテーマだった	19
④	所用時間が長い	68
⑤	難しそうだから	50
⑥	行政の事業には興味がない	7
⑦	面倒だから	19
⑧	謝礼が少ないから	0
⑨	その他	69
無回答		4
合計		420

設問6, 次回、このようなイベントの案内が届いたら、どうしますか。		
①	日程が合えば、参加する	76
②	興味のあるテーマならば参加する	67
③	できれば参加したくない	67
④	その他	32
無回答		14
合計		256

6 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会の動き

- (1) 茅ヶ崎市「市民討議会」開催に関する協定の締結（4月1日）
- (2) 平成26年度第1回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（5月13日）
市民討議会テーマの検討、実施に向けた実行委員会等スケジュールについての意見交換
- (3) 第2回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（6月13日）
討議テーマに沿った個別討議のテーマ検討。事前・事後アンケート内容の検討。
- (4) 模擬「市民討議会」実施（6月20日）
- (5) 市民討議会事前アンケート実施（6月23日発送）
- (6) 茅ヶ崎市「市民討議会」開催（7月6日）。事後アンケート実施。
- (7) 第3回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（8月27日）
市民討議会の振り返り。事前・事後アンケート結果の共有。
- (8) 第4回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（10月7日）
市民討議会検証に向けた重点項目の検討
- (9) 第5回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（11月25日）
市民討議会検証に向けたヒアリング項目等の確認・検討
- (10) 第6回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（2月4日）
市民討議会検証に向けた最終目標及びスケジュール等の検討・共有

あとがき

市民討議会は市民参画の手法として、近年、全国各地で開催されております。日本で最初に行われたのが2005年。そして、茅ヶ崎市では、行政、茅ヶ崎青年会議所、文教大学と3者協働で「市民討議会実行委員会」を組織し、2008年に1回目を開催して以降、毎年継続的に「茅ヶ崎市市民討議会」を開催して参りました。この実行委員会を産官学で組織するというのは大変珍しく、茅ヶ崎市で行われる市民討議会は他市からも注目されている討議会になっております。

茅ヶ崎市は、市民参加条例が施行され、市民アンケートやワークショップなど、市民の意見を積極的に市政に反映させる流れになっています。市民参加手法は様々ありますが、市民討議会というのは「市民の皆様の声なき声を聞くことが出来る」という点が特徴です。無作為抽出から参加承諾を頂いた方にご参加いただくことで、市政について様々な意識を持った方の声を集めることが出来ます。そのような市民の潜在的な声を集め、施策に活かすことのできる「茅ヶ崎市市民討議会」というものが、市民参加手法として確立できればという事で、回を重ねて開催、検証して参りました。

回を重ねることで、市民討議会を利用し、そこから上がってきた意見やアイデアを、施策の作成時や決定時に反映させることが出来てくるなど、徐々に成果を見せてきており、市民参加の重要な方法になりつつあります。今回の市民討議会も年初に各課へのヒアリングから上がってきたテーマのなかから、今回は企画経営課と高齢福祉介護課が中心となり取り組んでいる「豊かな長寿社会」をテーマとして選び、第7回の茅ヶ崎市市民討議会を「いつまでも暮らす・楽しむ 茅ヶ崎ライフ～私たちの豊かな長寿社会に向けて～」と題し、開催いたしました。

今回はこれまでの実績を再び検証しながら、無作為抽出での案内文は市民800名から1,000名と増やしての案内をさせていただきました。一般的な市民討議会の承諾率に比べると、依然茅ヶ崎の市民の方の意識は高い傾向にあり、承諾率も平均よりは高い印象ではありますが、回を重ねるごとに茅ヶ崎市民からの参加承諾率は低下傾向にありました。今回は200名の案内を増やしたというのがありますが、非常に特筆すべきは若年層からの参加承諾も多く、非常に幅広い世代にご参加いただくことが出来ました。テーマとしてもやはり避けては通れない、まちの大きな課題である高齢化社会に向けたテーマでしたので、参加市民の興味や参加意欲は非常に高く、活発な討議が行われたと思います。身近なテーマでありますので、専門知識を持つ先生、看護や見取りの体験者、そして行政サービスを提供する側の方からの情報提供をさせていただきました。高齢化社会のワーストシナリオのお話も出ましたが、いずれの討議も、ただただ先行きの不安を感じたり、重たい空気が流れるのではなく、元気なシルバー世代の力をどのように発揮してまちに活かしていくか、互いに助け合いながら来たるべき将来に備えるか、イキイキ元気に住み暮らせるまち茅ヶ崎であるために市民として何をしていこうかといったような、非常に前向きな討議になっていたのが印象的でした。そこで出された意見の数々は、実際にその後の担当課での会議でもしっかりとシェアをされ、今後の施策に反映させることが出来、まさに、市民討議会に求める『幅広い層の潜在的な意見を市政に反映させる』目的が果たせた討議会となったと思います。

これまで、回を重ねてこの「茅ヶ崎市民討議会」を開催してきたわけですが、今後はこれら6年間の討議会を再度検証し、まとめ上げることで、「茅ヶ崎市市民討議会」というものが形作られ、誰でも利用できる、市民参加手法として確立されることを目指しております。引続き、茅ヶ崎市、文教大学、茅ヶ崎青年会議所と3者協働で実行委員会を設置し、検証と手法の確立に向けしっかりとその責任を果たすべく活動に励んで参ります。

実行委員会の一員である茅ヶ崎青年会議所の運動の一つに市民意識変革運動があり、より良い地域をつくるために一人一人の意識を変えよう、市民一人ひとりの社会参画意識、当事者意識を醸成しようという事で、様々な事業を行っております。その中でも「茅ヶ崎市市民討議会」の開催に携わるというのは、まさに、市民の市政への参加意識の醸成を図ることが出来る大切な機会であり、6年以上に亘り、実行委員会の一員として関わらせていただいたことは我々青年会議所にとっても非常に素晴らしい経験であり、心から感謝をしております。また、行政の方たちの「市民のために」よりよい施策やサービスをという思いを近くで感じる事が出来たり、文教大学の山田先生のゼミの学生さんが非常に高い意識で毎年実行委員会にも参加、お手伝いいただくなど、幅広い年代で、様々な立場の人々が集まって実行委員会を組織し、討議会を開催するというのは、非常に充実した視点から企画し本番を迎えるに至り、とても素晴らしいことだと思いますし、この実行委員会を通して我々こそが学び、まちづくりを真剣に考えることが出来ました。今後は今まで行ってきました「茅ヶ崎市市民討議会」が、きちんとした茅ヶ崎市の市民参加手法として確立されるよう、検証作業も含めて最後までしっかりと責任を果たして参りたいと思います。

最後に市民討議会の成立には、市民のみなさまの承諾があつて初めて成立するものであります。参加された皆さまが貴重な時間を割いていただき、参加いただくことに実行委員会一同、大変感謝いたします。ありがとうございました。

公益社団法人茅ヶ崎青年会議所
岩澤 あゆみ

平成 26 年度茅ヶ崎市市民討議会報告書
平成 27 年 3 月発行

編集 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会
発行 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会
茅ヶ崎市新栄町 13 番 29 号
公益社団法人茅ヶ崎青年会議所内